

Title	冥王星の1943年 (1943年の天文年鑑)
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1942), 23(259): 24-24
Issue Date	1942-12-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/168528
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

冥王星の1943年

1930年の初めにトンボ1氏が発見してから、今年は13年目であるが、依然として此の星は、蟹座のガ星の東北 $2^{\circ}\sim 3^{\circ}$ あたりを、悠々と運行してゐる。光りが弱くて、普通的手段では殆んど其の姿を見せない。“幽冥界の支配者”だから、止むを得ないが、しかし世界第一流の望遠鏡を持つてゐる人は、寫眞法によつて観測し得ると思ふ。さしあたり、此の星の變光状態の有無を確かめることは、大きい功績であらうと思はれる。この冥王星の位置は、大體、下の通り。

日時	赤經(1950.0)			赤緯(1950.0)	地球より距離 單位	光度(眼視)
	h	m	s			
1943年 1月 1日	8	42	18	+23° 31.8	37.23	14.5
2月 1日	8	39	31	+23 45.1	37.12	14.5
3月 1日	8	36	58	+23 55.1	37.28	14.5
4月 1日	8	35	11	+24 0.1	37.69	14.5
5月 1日	8	35	09	+23 58.7	38.14	14.5
6月 1日	8	36	37	+23 51.3	38.60	14.5
7月 1日	8	39	26	+23 40.6	38.90	14.5
8月 1日	8	43	05	+23 28.3	38.98	14.5
9月 1日	8	46	45	+23 17.9	38.83	14.5
10月 1日	8	49	33	+23 12.3	38.40	14.5
11月 1日	8	51	04	+23 12.9	37.88	14.5
12月 1日	8	50	55	+23 20.4	37.37	14.5
1944年 1月 1日	8	49	07	+23 34.1	36.99	14.5

冥王星の観測時期は、毎年の年末から、翌年三四月頃まで、大體寒い頃である。今1943年は一月27日に太陽と對衝になる。その時、地球からの最短距離は37.1單位、即ち55億7千萬キロ、光達時間は5時間08分である。太陽と會合するのは八月1日。又、西留は四月19日、東留は十一月11日である。

1943年の彗星界

今1943年中に近日點へ歸つて來る週期彗星は、今まで知れてゐるもののうち、下記のものが豫想される。

星の名	週期	近日點距離	離心率	引數	昇交點	傾斜	歸來期
		單位					
ネウイミン	5.43	1.335	0.568	193 38	327 44	10 38	4月
ダレスト	6.68	1.375	0.612	174 17	143 44	18 03	9月
ダニエル	6.82	1.536	0.573	6 07	70 18	19 50	11月
ショーマス	7.93	1.166	0.707	46 15	90 25	14 42	8月

この4つの彗星のうち、最初に記したネウイミン星は、1916年と1927年とに観測されたものであるが、1921年と1932年とには、見付からなかつた。これは、週期が凡そ5年半であるため、観測の都合は、1回毎に良かつたり、悪かつたりするのが交代するからであらう。つまり、観測不能といふのは、其の出現